

4 カラスバト【烏鳩】(ハト目ハト科)

指定	昭和46年5月19日	国指定天然記念物(動物)
所在地	(三重県・和歌山県・長崎県・鹿児島県)	
管理者	所在市町	

全身黒色で、頭部に赤褐色、体に緑色の光沢をもつ。全長約40センチ。日本のハト類中最大のハト。台湾近辺の島嶼から北に南西諸島、本州中部以南の暖流域海岸や島嶼、朝鮮半島南部の島嶼、伊豆・小笠原諸島に分布する。日本列島の準特産種である。

温暖な地方の海岸や島嶼のヤブツバキ・シイ・タブノキなどの照葉樹林に一年中生息し、木の実を食べる。特にツバキの実を好み、実がなるころには多くの個体が樹上に集まっているのが観察される。そのほかの時には地上に降りて餌をさがしている。照葉樹の枝の茂みやシイやタブノキ、モチの老木の洞に小枝を粗く組んで巣をつくり、白色の卵を1個だけ産む。つばさをゆっくりはばたいて、直線的に飛ぶ。鳴き声はウウー、またはモッモーと聞こえ、「ウシバト」の地方名もある。屋久島では、その外観から「クロバト」と呼ばれている。

伊豆諸島の御蔵島や三宅島、青ヶ島など照葉樹の原生林が残されている地域ではその数は多いが、二次林や造林地には少ない。分布地域の各地で、照葉樹林が失われる傾向にあり、個体数および分布域の減少が懸念されている。